

## 富山市総合計画審議会第3回潤い部会 概要

場所：富山市役所議会棟7階 第2委員会室

日時：平成18年2月13日(月)

10:00 ~ 12:00

### 1 開会

### 2 部会長あいさつ

中村部会長 あいさつ

- ・ 第3回の部会になるが、第1回は「潤い」をキーワードに様々なご意見をいただき、第2回には「コンパクトなまちづくり」、「公共交通関係」並びに評価指標についての活発な議論をいただいた。本日は、これまでの議論を踏まえた総合計画体系(案)について、議論をお願いしたい。

### 3 議事

(1) 策定スケジュール(案)について

(2) 総合計画の体系(案)について

< 概要 >

(事務局) 議事(1)(2)の資料について説明

(部会長) 6月の原案作成を念頭に、議論を進めていただきたい。まず、体系(案)の基本理念について、議論願いたい。

(委員) 市の立地特性として掲げている「市街地の拡大と中心地区の空洞化」、「過疎地域を含む中山間地域の人口減少」については、立地特性というよりも、課題又は時代の潮流として捉えるべきではないか。

(部会長) 「地域」という視点で捉えると、市の分類でも捉えられると思うが、確かに違和感を覚える。

(委員) 都市の特徴として、アピールすべき点の  
「海岸部から山岳地帯までが、一体となった自然に恵まれた広大な都市」  
「陸・海・空の交通基盤が整備された交通の結節点」  
「北陸新幹線の開業により首都圏までの移動時間が大幅に短縮」の3項目と先の2項目については、別に捉えたほうが良いと考える。

(事務局) ご指摘のとおり違和感が感じられるところもあるかもしれないが、計画策

定の基礎的事項として、この2点を踏まえて取り組んでいきたいという考えである。

(委員) 「市街地の拡大と中心地区の空洞化」については、特性からはずしても、主要課題にある「コンパクトなまちづくり」の中で、論じることができるが、「過疎地域を含む中山間地域の人口減少」をはずしてしまうと、旧6町村の共通課題である「中山間地域」という特性が全く現れてこなくなる。

(委員) 「富山の特徴」として5点とも必要であるという点については異存はない。

(委員) 2点については、「市の特性」ではなく、「日本中が抱えている現象」であり、これらを切り離して、総合計画の主題目として考えるべきである。

(委員) 目指しているところは、外れているとは思わないが、取りまとめ方と流れに違和感がある。

(委員) 「全国的にも市街地の人口密度が低い」という点を捉えれば、富山市の特性になる。

(部会長) どれ一つとして、はずすことができない項目であり、取りまとめ方の工夫により対応することとしてはどうか。他の部会においても同様の意見があることも考えられるので、この部会での意見として、整理しておきたい。

さて、「潤い」が「潤いが実感できる」と変わったことによってかなりニュアンスが変わった感じがする。

事務局に確認するが、基本構想では、どの程度まで表現していくことになるのか。

(事務局) 特に定めがあるわけではないが、基本の部分だけではなく、ある程度膨らみのあるもので作成したい。

10年間という比較的長期の構想であることから、具体的な記述ができるかは、今後の検討課題である。

現在想定しているものとしては、資料にある「施策の方向性」の部分がある程度整理して取りまとめたものを基本構想としたいと考えている。

(部会長) 具体的に体系(案)について、順次、ご意見をお伺いしたい。

(委員) 富山は、自然(景観)をよく目にすることができる素晴らしい環境にある。この景観を富山市のシンボルとして活用していくことが大事ではないか。

立山連峰と河川が見えるような景観づくりを盛り込んでいけば良いのではないか。

活動指標の中で、自然環境をアピールできるようなものを用意できれば良いと思われる。

(委員) 活動指標の例の中には、行政の視点と市民の視点があると思うので、市民の視点に立った指標の設定が必要ではないか。つくる側の視点と使う側の視点をバランスよく取り入れることが必要。

(部会長) 行政の取り組みと利用者の満足度が比較できるような指標の設定が必要である。最終的には利用者から評価が重要であり、いくらお金を使ったかではなく、市民がどのくらいの満足度が得られたかということのを的確に表している指標があればベストである。

(委員) 体系(案)については、よくまとまっていると思うが、今後の具体的な取り組みが重要なポイントになってくると思う。

例えば、「温泉施設の利用者数」という指標に対する目標を設定する必要があり、その目標を達成するためには、どうすればいいのかを検証する「審議会」のような組織を設置すべきではないか。

それぞれの具体的な取り組みをチェック・検証する仕組みづくりを確立していくことが必要である。理念だけではなく、具体的な目標と取り組みの経過を目に見える形で市民に示していくこと必要である。

(事務局) 指標によって、目標実現の可能性の高低があると思われるが、実現に向けての取り組みは、当然推進していく。しかしながら、すべての指標に対して高い目標を設定することは困難であることから、重点的に取り組んでいくべきものを選択していく必要がある。

(部会長) 成果指標には目標値を設定するのか？

(事務局) 成果指標、活動指標とも目標値を設定する予定である。

(委員) 民間事業者は、常に月間の目標を設定し、その目標を達成できなかった場合には、その検証と改善策を実施し、翌月の事業計画に取り込んでいる。

漠然と事業を実施しては、何も良くなるしない。一人ひとりが何をすべきなのかを明確にしていくことが、重要である。

(委員) アンケートや意見を聞いていくことが重要である。市民の意見を敏感に感じて対応することが重要である。

(部会長) 行政サービスは、民間のように対価を直接受け取るものではないことから、顧客(市民)の満足度を直接表すことができるような指標の設定がますます

重要であると考える。

- (委員) 市民からの質問に対して、市が誠実に応えていく姿勢が大事である。
- (部会長) パブリックコメントなどがそれにあたるがまだまだ敷居が高いのではないか。
- (委員) 市民からの意見にどう応えたかをお知らせすることも市のPRになるのではないか。
- (委員) 成果指標と活動指標が結びつかない。この成果を得るためにどのような活動をすれば良いのかが見えるようにできないのか。
- (委員) 「主要課題」に市独自イメージを掲げた表現が必要である。
- (委員) 都市と自然の調和についての具体的なイメージが見えてこない。
- (部会長) 「まちづくり」は都市部のことだけを指すものではないという前提で、これまで議論を深めてきている。
- (委員) 安心・安全という言葉が多用されているが、森林・中山間地域の状況では、本当の安全・安心にはならない。  
これまでは、儲からない所には投資しないという考えのもとに、国土づくりがされてきた。これを改めることが根本的な課題。
- (部会長) 森林・中山間地域の重要性は、この部会のみならず、安心部会・安全部会・活力部会など、他の部会でも議論されていることから、協働部会において、ただ今の意見を伝えてまいりたい。
- (委員) 人が住むことが重要なのか、その他の振興策が重要なのか。今後の議論が必要である。
- (部会長) 「人を移す」ということは、本当に大変なことである。我々がすべきことは、中山間地域を活性化しようとしている人達の熱意や活動を妨げないようにする仕組みを作ることである。
- (委員) 森林・中山間地域の振興については、長い年月をかけて、進めていかなければならないことから、この構想に基本政策を盛り込んでおくことが重要である。
- (委員) ひとりでも多くの人が、中山間地域に足を運ぶことが、まず第1歩である

ことから、施策：「中山間地域の振興」の具体的な取り組みの例にある様々な活動がそのきっかけとなり、どう繋げていくかが重要である。

(委員) 水辺空間の創出として、松川周辺の遊歩道をもっと幅広くすれば、川としてのシンボル性が増すだろう。

まちの特徴が活きているまちが、発展するまちである。

長期的(50年後、100年後を見据えた)なビジョンを持って、整備を進めていく必要がある。

(委員) まちなかが賑わうためには、どうしたら人を集めることができるのかを検証していく必要がある。車社会であるという前提で考えていく必要がある。

公共交通の整備の必要性は理解しているが、中心市街地の駐車場の整備や無料化がもたらす効果が大きいと考えられる。

(委員) 駐車場のことだけを考えるのであれば、人が集中するところだから足りなくなるのであって、分散していれば大きな駐車場は必要ない。

(部会長) 市街地がまばらな形で拡散していくことによって、インフラ整備のコストが高くなってしまふことから、時代の潮流とは反してしまふのではないか。

(委員) 都心部に新規出店しない理由として、駐車場がない、賃料などの出店費用が高い、集客力が弱いなどが挙げられる。

中心部に大型店が出店できるような場所を確保していくことも考えていかなければいけない。

(委員) これまでも空き店舗活用対策を実施してきたが、目に見える効果が感じられない。問題点は中心部に大きなスペース(商業地・公園などの憩いのスペース)がないこと。長い目で見て、これらの再配置を考えていくことが重要。

(委員) 郊外でも都心部でも同じような生活をしたいという要望が強いことから、このような問題点が現れてくる。

(委員) これまでは、中心部でしか得ることができなかったことが、郊外でも得ることができるようになったことから、魅力がなくなった。

多少不便(駐車場が少ない等)でも中心市街地にしかない魅力をつくりあげていくことが大切なのではないか。

中心部の魅力は何なのかを考えることが必要である。

(委員) 中心部へのアクセス性の向上を図ることにより、若者の集客を呼び込み、まちの魅力を高めていくことができる。

- (委員) 人が集まるところに行きたくなるのは、人の特性である。ここに行けば何かあるというまちをつくっていかなければならない。
- (委員) 都市と自然の調和の観点から考えると、中心部にしかなかったものが、郊外で買えるようになったのと同様に、合併後は、中山間地域等の持つ魅力が中心部でも感じられるようになるのかと期待していたが、意外と感じられない。距離感もコンパクトになるように相互に行き来するような交流が必要ではないか。
- (委員) これまでも中心部での野菜の直売等も行われており、これらをもっとPRして、まちなかで交流できるような仕組みを広げていけばいいのではないか。
- (委員) 「中心」と思っているのは、中心の人だけ。土日の集客力を見ても、もう中心ではない。「やる気」も「センス」もない商店に客が来るわけがないのであって、行政は、何とかしようと頑張っているとしている人を支援すべきである。
- (委員) まちなかには、まだ可能性があると思っている。節目の時(卒業・入学時期や年末年始等)にはまちなかで買い物する機会がある人も多いはず。そのあたりが、まちなかの可能性としてポイントになっていると思う。
- (部会長) 中心市街地の商業者等が自主的に考えていくような環境づくりと公共交通の整備が行政の役割であり、その先は商業者の努力ではないか。
- (委員) 住まい方の提案として、高齢者向けの長屋式の公営住宅などの整備も必要ではないか。実験的にでも効率的に配置された街並みをつくってみることはできないのか。
- (委員) 地域の方々との話し合いにより、地域のまちづくりを考えていく時期ではないか。民間に任せておくのではなく、行政により実施しても良いのではないか。
- (委員) 「理想とするまち」と現実のまちなみを重ね合わせてみたときに、(市内には、)それに近いところはないのだろうか。
- (委員) 郊外の都市化により、優良農地が減少してきている。今こそ、これを守るための考えを総合計画に掲げなければならない。
- (委員) 年金生活者に中山間地域に住んでもらうことも考えられるのではないか。

(委員) 生活環境(病院までの距離や雪対策等)としては、高齢者には厳しいのではないか。

(部会長) 富山の中山間地域で農業をしませんかと呼びかければ、全国から関心が寄せられるだろうが、その時にも生活環境の問題に直面する。しかしながら、自らそうしたいという人を呼ぶのだから、それらを理解したうえで移り住んでくれるのではないか。

最後に「地域別ワークショップ」の結果について、事務局から報告願います。

(3) その他

・地域別ワークショップの結果報告について

(事務局) 議事(3)の資料について報告

<概要>

(委員) 若者の意見を聞く場を設ける必要もあると思う。

(部会長) 他にご意見が無いようですので、これで終了いたします。なお本日の意見は2月27日に開催される協働部会において報告します。

4 閉会

(以上)